

「真」か「偽」か

【芸術選書】

鑑定学への招待

「偽」の実態と「観察」による判別

杉本 欣久

(東北大学准教授) 著

定価 三、五二〇円



学術研究としての「美術史」においても、「偽」の存在はその健全さを危うくし得る、非常に大きな壁として立ち塞がっている。そこで「真」「偽」の問題は、避けて通ることができない最重要の課題と認識したうえで、建設的な議論を進めていくためには科学的な合理性を備えた「鑑定学」の構築が不可欠と考え、その方法論について論述する。(中略) 「鑑定」という行為はどこか学術的な次元と異にするかのように思われているが、それが学問として成立し得ることを改めて提示したい。そして本書にみる「鑑定」の支えとなり得る思想を説明し、科学性や合理性というものをどのようにとらえるべきかを考察する。

(本文より抜粋)

研究の世界でタブー視されてきた、美術作品をめぐる「鑑定」の入門書。 観るべきポイントを丁寧にひもといていく。

目次

- はじめに—学術研究としての「美術史」と「鑑定」
- 一 「偽」の実態 —江戸時代編
 - 二 「偽」の実態 —明治〜大正編
 - 三 形式要素の「観察」
—資料性評価のチェックポイント
 - 四 「観察」の実践1 物質面—経年変化、本紙
1 経年変化（物質年代）
2 本紙（紙、絹）
 - 五 「観察」の実践2 技術面—筆墨、彩色ほか
1 筆墨
2 彩色
3 金箔、金砂子、金泥
 - 4 画面構成（構図）
5 形態表現
 - 六 「観察」の実践3 周辺情報—落款、賛ほか
1 落款
2 落款偽装の実際
3 賛
4 付属品、付属情報
 - 七 形式要素の「比較」—資料性評価の実際
1 「風神雷神図屏風」
2 「州浜牡丹双鳥文鏡」
3 「竹梅図屏風」
 - 八 批判的「観察」と科学—資料性評価の理論
おわりに—「鑑定」の作法
- あとがき
図版出典

【芸術選書】

鑑定学への招待

—「偽」の実態と「観察」による判別—

四六判上製カバー装

本文 212 頁 口絵 8 頁

ISBN 978-4-8055-1501-3

2023 年 3 月刊 C1071

定価 3,520 円

(本体 3,200 円+税 10%)

※【芸術選書】とは…

美術史・建築史分野で普遍性のあるテーマを専門性を担保しつつ、専門家と読者を架橋する新シリーズです。



【著者略歴】

杉本欣久（すぎもと・よしひさ）

東北大学大学院文学研究科 准教授。博士（文学）。

1973 年、京都市生まれ。

1998 年 3 月、早稲田大学大学院文学研究科芸術学（美術史）専攻修士課程修了。同年 4 月より、黒川古文化研究所に勤務。2009 年 3 月、早稲田大学にて博士（文学）の学位を取得。2018 年 4 月より、東北大学大学院文学研究科（東洋・日本美術史）の准教授として日本近世絵画史を研究。美術史学会常任委員、事務局長を歴任。文化財保存修復学会、美学会などに所属。

〔主要著作〕 「武士の絵画—中国絵画の受容と文人精神の展開—」（中央公論美術出版 2020 年）、東北大学大学院文学研究科講演・出版企画委員会『人文社会科学講演シリーズ 12 私のモノがたり』（共著、東北大学出版会 2021 年）ほか。

関連書籍のご案内

武士の絵画

—中国絵画の受容と文人精神の展開—

杉本欣久 著

江戸時代における市長の中心であった儒教的価値観に着目することによって、どのような歴史観が構築できるかという観点から、江戸時代に生きた画家たちが憧憬した「文人」の精神や生き方を捉え、その絵画の成立背景を明らかにする。

定価 16,500 円（本体 15,000 円+税 10%）

B5 判上製函入 本文 594 頁 口絵 8 頁

2020 年 10 月刊 ISBN 978-4-8055-0882-4 C3071

光琳論

【國華賞・徳川賞受賞】

仲町啓子 著

江戸時代を代表する琳派の絵師、尾形光琳(1658~1716)について、著者永年の研究を書下ろしにて集大成する。光琳の子孫の小西家に伝わった文書・画稿類、さらには同年代の資料を元に、光琳の伝記を再考することで、彼の絵画制作に対する研鑽の跡を追った。先学の研究を参照しつつも、既知の完成作品にも新たな解釈を加え、光琳の歩んだ道を描き出すことを目的とし、その全体像を新たな視点から、かつ一貫した構想によって捉えなおす。

定価 26,400 円（本体 24,000 円+税 10%）

B5 判上製函入 本文 348 頁 口絵 16 頁

2020 年 9 月刊 ISBN 978-4-8055-0880-0 C3071

刊行スタート！

【芸術選書】 明治浮世絵師列伝



菅原真弓 著

「明治の写楽」と称され役者絵を得意とした豊原国周、いわゆる黎明期の出版人としても評価されるべき落合芳幾、近年明治の浮世絵師の代表として評価の高まっている月岡芳年、その死によって浮世絵の歴史は幕を閉じるとも評された小林清親、浮世絵が過去のものとなりゆく時代を生きた「最後の浮世絵師」たちの生涯と作品。

定価 3,850 円（本体 3,500 円+税 10%）

四六判上製カバー装 本文 272 頁 口絵 16 頁

2023 年 3 月刊 ISBN 978-4-8055-1502-0 C1071

中央公論美術出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-10-1

IVYビル6F

Tel: 03-5577-4797 Fax: 03-5577-4798

お取り扱いは